

新潟県

公民館月報 11

平成11年11月号 通巻第561号



表紙 子ども稲づくり体験事業
(横越町中央公民館)

特集 全国生涯学習センター等
職員研究協議会報告

視 点 高齢者学級に総合学習を
ひろば あいさつは脚下照顧で
実践記録 敬和学園大学公開講座
サークル交流 ママのポケット (上越市立公民館)
「群青」(青海町公民館)
素顔拝見 星浩二さん (燕市)
大平千秋さん (六日町)

『新しい時代の公民館の役割は』

「生きがいを感じる地域社会をめざし」

去る10月28日(木)・29日(金)の二日間にあたって、活力のある創造性豊かなにわの地大阪厚生年金会館大ホールを主会場に、第22回全国公民館研究集会在盛大に開催された。近畿圏で遠方の地であることもあり、本県か

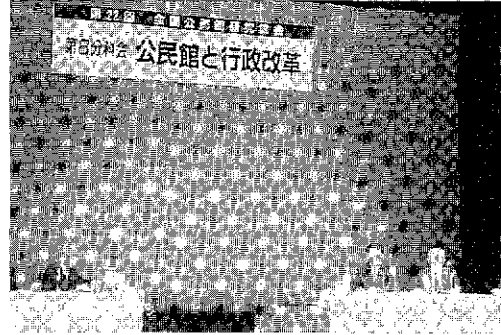
らは四名の参加であった。今回の研究テーマは、「新しい時代の公民館の役割は」生きがいを感じる地域社会をめざしと設定し、大会初日には千九百有余人の参加者が八分科会に別れて熱心な討議を展開した。

上方の笑い 笑える時代を案ずる
木下川 計 先生

本県からは、第八分科会「公民館と行政改革」の司会者を、見附市中央公民館北村弘文館長が担当され、社会教育行政の変化に対応した公民館のあり方を

主題に、(1)公民館活動の活性化に対する公民館運営審議会の役割、(2)社会や教育行政の変化に対応できる公民館のあり方、という二つの視点から討議を深められた。いずれも、地方分権・規制緩和の推進に関わる緊急の課題で、参加者が大きな関心を寄せた部会である。

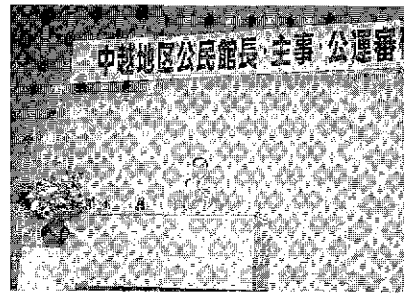
また、第四分科会「国際理解・国際交流」の運営責任者を、当会今井昭友会長が全公連監事の立場で努められた。



第二日目の全体会の開会セレモニーは、望月哲太郎全公連会長のあいさつ、中曾根弘文文部大臣(代理社会教育課長)、横山ノック大阪府知事の来賓祝辞(代理副知事)で終了した。

最後の記念講演は、「上方の笑い―笑える時代と条件―」と題して、立命館大学産業社会学部教授で、「上方芸能」代表木津川計先生が、笑いの具体的な場面を演じながら、話された。

【中公連、館長・主事・公運審委員研修会開催】

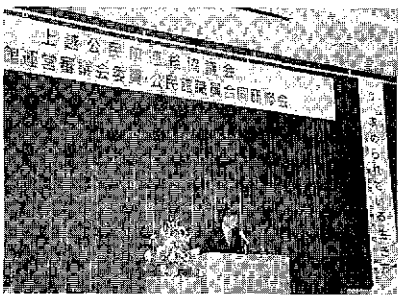


◇平成11・10・15(金)
「ひとつづくり・まちづくり」と公民館活動

○230余名の参加
◇十日町市公民館で
東洋大学創立110周年記念講師派遣事業の一環として、同大教授比嘉佑典先生をお招きし、「地域文化と生活学習」と題してご講演いただいた。

その後、実践発表に移り、(1)広がれ交流の輪、深まれ交流の絆(十日町市中条地区)(2)フィールドで楽しむ学習(川西町)(3)サバイバルキャンプ(津南町)(4)公民館活動(中里村)と、それぞれユニークな内容だった。

【上公連、公運審委員・職員合同研修会開催】



「公民館活動と活力ある地域づくり」
◇平成11・10・19(火)
○105名の参加

◇新井市ふれあい会館で
午前中は、(1)牧村生涯学習課金井英孝係長から「ふるさと牧村塾」(2)柿崎町自主グループ薄波清美様から「ボランティアを通して地域づくり」(3)名立町不動地区久保栄光夫館長から「活力ある地域活動を目指した公民館活動」と、それぞれ事例発表がなされた。

午後は、アトラクションと上越教育大教授前田幹先生のご講演でしめくくられた。

◇はじめに

「全国生涯学習センター等職員研究協議会」が九月一日〜三日迄の三日間、新潟県立生涯学習推進センターを会場として開催された。

この研究協議会は、平成八年開催以来今回で四回目の開催である。

ここに研修内容を報告すると共に、現地研修での「坂井輪地区公民館」の活動が、全国の注目を浴びたことも紹介し報告いたします。

一、趣 旨

開催の趣旨は、「全国の生涯学習推進センター、社会教育総合センター等の職員が一堂に会し、時代の変化に対応した情報

提供や研修事業の在り方について研究協議を行う」ことにより資質の向上を資することを目的に開催された。

二、研究協議の内容

1、講 演



「生涯学習振興施策の動向」について、国の基本的な

施策が話された。講師は文部省生涯学習局社会教育課地域学習活動推進室長の中垣英明氏で、次のような内容である。

「現在、教育・行政・財政計画など、いくつかの大きな改革がなされている。

地方分権の大きな流れの中で、国と地方との関係の見直しが必要となる。今までのように「中央からの指示で」という言い訳は許されない。市町村の受け皿作りが大切になってくる。当然、合併が行なわれたりするところもあるだろう。情報の公開や第三の機関による評価など、専門職受難の時代である。

今後、行政にとって「少子高齢化」「国際化」「情報化」に関連した施策を実施することが必要である。」と話された。
☆「少子高齢化」について
高齢化という言葉に良いイ

メージがない。しかし、高い購買力を持ち、大きなビジネスチャンスになることは間違いない。シルバーという名前があるだけで、売れなくなるというのも事実。老人クラブへの入り手がなくクラブの高齢化もまた問題。高齢化と高学歴化の問題は、生涯学習では見逃せないことである。

☆「国際化」「情報化」について
コンピュータ教育がますます盛んになり、インターネットも普及して行く中で、個人による情報ネットワークが増加していくだろう。

日本は、国際機関に関する拠出金は多いのに関係する人間を送っていない。世界におけるパワーゲームに負けてしまう。そのためには、話す力を身につける必要がある。

最後に、これからの生涯学習担当者には、コーディネーターの役割が強く求められてくる。生涯学習行政の課題解決に向けて、社会資源の活用や民間との競合も念頭に置きながら努力してほしい、と結ばれた。

新潟県の生涯学習推進センターも、コーディネーターの役割に重点を置くことを考えて来たことは間違いがなかった、と意を強くした次第である。

2、特別講義



「ネットワーク社会と教育」という演題で、メデア

教育開発センター所長の坂元昂氏が次のような内容で講演された。

「平成八年度の教育課程審議会答申では、国際化、情報化、科学技術の問題、環境問題等の中で21世紀を指して必要な能力は、「生きる力」であるとされている。しかし、自分は「生き抜く力」としたかったが、審議会委員の方々の賛同が得られなかった。

学習指導要領は全国共通カリキュラムである。そこに、地域の教育カリキュラムを入れて行きながら、子どもたちに「生きる力」をつけていくべきだ。

また、中央教育審議会答申には、「総合的な学習の時間」の情報教育の二つの目玉がある」と力説された。

次に、学びの変化については、「教育が大衆化してきた」ことを話され、誰もがいろいろな方法で情報の作り手になっているといわれる。
また、学び方がどう変わって行くかについては、受ける学び

から、①選ぶ学び ②創る学び ③発する学びへと変化している」と話され、21世紀の学力の基礎・基本を①表現、コミュニケーション ②論理、数理 ③環境(自然、社会、人間)の三点だと語られた。

このあと、インターネット活用、テレビ会議活用、衛星通信活用や遠隔教育の意義など、沢山のご指導があったが、紙面の都合で割愛したい。

3、分科会(研究協議)



「ネットワーク行政と生涯学習推進の課題」というテーマで二つの分科会が開催された。

①第一分科会
「学校との連携」

新潟県小千谷市立小千谷小学校小林弘校長が、地域との連携の実践報告をされた。
内容は、「保護者の学習参加から学習参加へ、さらに学習参加への取組み」事例と、今後の融合授業への構想が紹介された。
②第二分科会、

等職員研究協議会報告
学習推進センター

特集 平成11年度 全国生涯学習センター 新潟県立生涯

「市町村との連携」

茨城県水戸生涯学習センターの岡島譲氏が市町村の連携について提案され、「連携」を「つながりあい」の語に置き換え、互いの仕事の削減を考えたい。また、県の仕事は市町村の連携を支えることでないか、と提言なされた。

③第三分科会

「生涯学習施設間の連携」新潟県立生涯学習推進センターの真柄正幸氏が、生涯学習施設間の連携について「いきいき県民カレッジ」の研修会を通しての実践を発表した。県民カレッジは広域的に開かれた講座を体系化し、県民に、より多くの学習機会を提供できるように他の市町村や他の社会教育関連施設、民間の関連施設や大学な

どとの連携の在り方や課題について提案された。

4、講義 内容省略

「プログラム開発の理論」
講師 常磐大学
金藤ふゆ子氏

5、講義・ワークショップ

「研修プログラムの企画参加 体験型手法のすすめ」
富山大学 藤原孝章 氏
桜井・法貴 グローバル教育
研究所長 桜井高志 氏

内容省略

6、現地研修

「坂井輪地区公民館」訪問
「住民が主人公」の「坂井輪地域学研究会」の活動が、会場を現地公民館に移動し、全国の参加者に紹介され、素晴らしい評価を得たことを報告したい。



活動の様子が分かる沢山の資料が、会員の準備で部屋一杯に展示されており、それだけで日頃の活動の素晴らしさが伺えた。そんな中で、飯塚地域学研究会会長と青池館長より、それぞれの立場から以下のように

な紹介があった。

な紹介があった。

(2) 地域学研究会側から

①地域学発足の過程
地域の環境問題、高齢福祉、青少年問題等、沢山の地域課題を大学と連携し、共同研究によって「住民白らの手で」問題改善を図り、地域づくりの実践を日指そうと発足し、その時、公民館からの呼びかけで「坂井輪地域学研究会・企画運営委員会」が平成八年六月にスタートした。

②公民館との連携

活動の場が公民館を中心に展開して行く中で、研究内容の如何では行政側の専門職員の話や大学の先生の講義を聴く必要性が度々出てくる。公民館と連携することで、講師派遣の折衝や行政との連携、会場の設営等、事務局の立場を担当してもらった。

③「地域づくり」に果たす役割

地域の特性、歴史や自然、文化を研究会で知ると同時に、その学習結果が、次世代に受け継がれ、坂井輪地域の明日への「まちづくり」に役立つことを願い、物語り風の紙芝居として制作し、学童や地域の人達に見てもらいたいと現在制作中である。

(3) 行政側から

①支援で留意したこと
社会性をもった課題を体系的、組織的に学習できるように「地域学研究会」を発足し、企画、展開等で住民自身を活かし、自主的な活動を大学や企業そして行政と連携した支援を考えた。

②公民館としての在り方

●人材(財)の活用
地域の人々に講師を依頼し地域への拡がりを図る
●情報の発信
学習の成果を関係機関に配布したり、アンケート結果を自治会を通して回覧
●学習課題の設定
身近な題材が目的意識を持ちやすいし、効果もある
●学習機会の公開
公開講座、シンポジウム等を開催し、住民への啓発と学習者の発掘

③なぜ、参画・体験学習が主体が自分たちであるとの認識が生まれ、他者を認め合う動きが発生し、学習者が全員参画しているという意識の变革が見られた。

また、テーマを生活に密着したものにすると、共に取り組む学習活動として考えた。
④「地域づくり」に果たす役割

自分の地域は自分でつくるという「自治意識の高揚」と、お互いに理解し、創造していく力を発揮できる場の「関係づくり」と考える。

(4) 最後に

「誰でも自由に参加できる地域学研究会」ということを、今まで以上に地域の住民から理解してもらおうことを研究会側では課題とし、行政側は、地域住民に「自分でできることから始めればいいんだ」ということに気づく場をいかに提供するかと考えているなど、まだ課題はあると言われる。また、青池館長は、地域学の学びは「公民館が住民の人々に支援されていた」とも言われた。

「住民が主人公」として活動している坂井輪地区公民館の取り組みは、住民参加が当たり前のようになっているが、なかなか実践となると困難な点が多いと思う。その中で、具体的な住民学習活動の実践をされた「坂井輪地域学研究会」と坂井輪地区公民館の活動報告は、21世紀の公民館活動の指針となる発表であった。

この特集は、県立生涯学習推進センター、学習振興課皆川弘安課長から執筆いただきました。

実践記録シリズ(38)

大学連携講座

平成十一年度

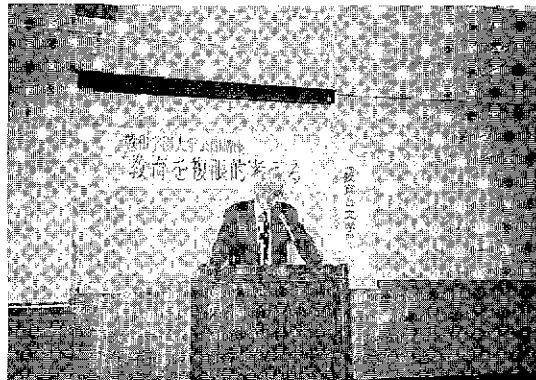
敬和学園大学公開講座

北蒲・聖籠町教育委員会



一、はじめに

聖籠町における敬和学園大学公開講座が、平成六年に開始してから今年で五年目となりました。この講座が始まったきっかけは、敬和学園大学からの呼びかけでした。敬和学園大学は平



成三年四月に開学し、校地は聖籠町と新発田市にまたがっています。同大学の活動の一環として地域に開かれた大学を目指し、教授を地域へと派遣する「公開講座」が企画されました。現在、聖籠町、新発田市、両市町で開催されています。特に聖籠町においては、「教育」を中心に「現状の課題」として捉えたものをテーマとして、シリーズで実施してきました。

二、今年度の取組み

今年度は、社会的・文化的・歴史的な観点から教育に関する視野を広げること狙いとして、「教育を複眼的に考える」をテーマに、六回の講座がもたれました。

初回の講師は、同大学の

学長である北垣宗治先生で、「教育と文学」のテーマのもと、「ロビンソン・クルソー」「ハックルベリー・フィンの冒険」を題材に、人生のモデルとしての小説の主人公の行き方から、文学作品を教育の材料としてとらえた講義でした。受講生一同、文学の違う一面を発見できたようです。以降全六回の講座を通して、教育の今日の問題に対する視野を広げる学習が進められました。

講座には、町内外から毎回幅広い年齢層の受講生が集まり、それぞれの先生方の講義に熱心に聴き入っていました。受講生の皆さんからの感想では、「学生時代に聴いた講義を思い出し、懐かしく、楽しかった」、「文学をいろいろな面から見る事ができた」、「初めは難しく感じたが聴いているうちにだんだん面白くなってきた」、「先生たちの話術の巧みさに引き込まれた」等々。

三、おわりに

生涯学習が推進されている今日、常に「学びたい」という市民の学習意欲は旺盛になってきています。今後、この講座に対する町民の感心も今以上に高く、意見や要望も多くなることと思われまます。それらを取り入れながら、敬和学園大学と協力し、より多くの町民に参加してもらえような講座を考えていきたいと思っています。

(堀 千恵美 記)



第9回 聖籠町音楽祭のお知らせ

- ◆日時/平成11年11月20日(土) 午後1時30分～午後3時30分(予定)
- ◆会場/聖籠町文化会館
- ◆出場予定/町内小中学生の皆さん一般の方、ゲスト
- ◆出演資格/町内に在住又は在勤の方
- ◆入場/無料・先着350名まで
- 主催/聖籠町教育委員会
- 後援/聖籠町教育研究協議会

平成11年度 敬和学園大学公開講座

	月日	演 題	講 師
1	5/13 (内)	教育と文学	敬和学園大学長 北垣 宗治
2	5/20 (内)	教育と文明・宗教	敬和学園大学宗教部部長 延原 時行
3	5/27 (内)	教育と素朴心理	敬和学園大学助教授 益谷 真
4	6/3 (内)	教育と社会	敬和学園大学教授 柴沼 晶子
5	6/10 (内)	教育と倫理	敬和学園大学専任講師 矢島 直規
6	6/17 (内)	教育と福祉	新潟県立女子短期大学助教授 斎藤 裕

サークル交流

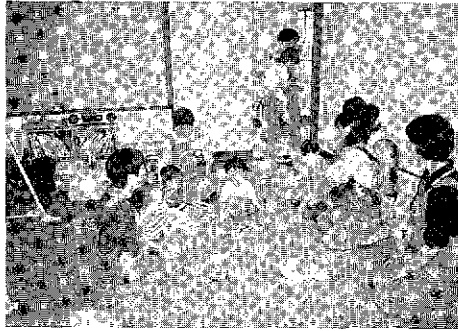
出逢いの保育

楽しんでます

して欲しいという気持ちから、保育ルームで子ども達の世話をしています。

保育グループママのポケット 公民館主催の「保育ボランティア養成講座」を修了し、自主的にグループを作ったのは平成8年の秋でした。全員、子育て経験のある30～50代の女性です。

子育て中でも何らかの形で、社会とつながりを持っていたいという願いながら、私達はなかなかチャンスに恵まれませんでしたが、けれども形を変えて、今子育て中の女性達には、公民館で催される様々な講座に是非参加



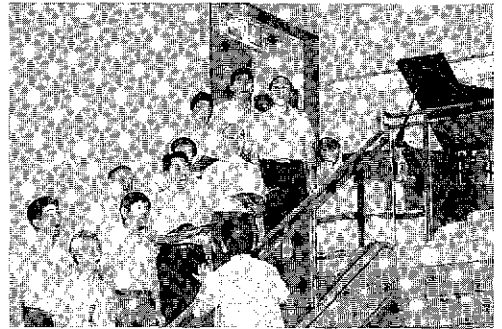
当初、公民館での活動でスタートしたのですが、上越市内諸施設を中心に、講座・講演会・コンサートなどの折に保育ルームが設けられるようになり、活動範囲が広がってきました。また、女性達の社会参加支援の活動が、夫婦で参加される方達の支援へと展開しています。現在メンバーは24名。「ママのポケット」の名の入ったエプロンを揃え、保育ルームでの出逢いを楽しんでいます。(上越市ママのポケット 山本 廣子 記)

心にとどく

ハーモニイを目指して

男声合唱団「群青」

男声合唱団「群青」は、結婚22カ月目の若い集団です。稀少ない「男だけの合唱団」として誕生して以来、老若幅広い年齢で構成される15名の団員が「青海町総合文化会館」を拠点に週1回約3時間の楽しい練習に励んでいます。講師には合唱指導ベテランの指揮者を上越



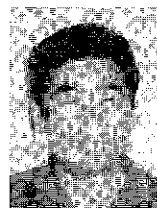
市から迎え、発声の基礎から地道な指導を受け一年後には早くもその成果を著しつつあります。合唱経験のない団員が大半でスタートした「群青」ですが一年を経過した現在、各イベントでへ人の心に届く「ハーモニイ」を目指す「群青」のひびきは聴衆はもとより、先生方からも高い評価をいただいています。また一年目から他合唱団のコンサートにも招かれる等、発表の機会にも恵まれています。ともあれ我が男声合唱団「群青」は、今後も「好きな歌を楽しく伸び伸びと」を信条にした活動を展開し、男性の合唱愛好者の発掘と仲間づくりを全員で励んで行きたいと考えています。(同団代表 木本 満 記)

燕市中央公民館

事業係長 星 浩二 さん

丸い顔に小さなやさしい目。

星さんは今年4月の異動で公民館勤務になった。3月までの企画調整課情報管理係とは全く違った職務だが、持ち前の明るさとバイタリティーでバツバツと仕事をこなしている。燕市では公民館と生涯学習課が兼務なので、仕事の内容もバ



ラエティーに富んでいる。「燕に遺跡なんてあるのぉー」

素顔 拝見

と言いつながら穴掘りに出かけた。ジュニアリーダー研修会では子ども達に火のおこし方を指導したりと忙しい。よく体が動くものだと感じる。本人は密かに「やせるのでは…」と期待しているようだ。4月に半数以上の職員が入れ替わった中での係長は難しいだろうが、21世紀に向けた新しい社会教育・公民館活動を目指して力を出してほしい。私生活では、最近飼いはじめた犬にメロメロで、「うちの娘」と呼んで尻尾を下げています。(同館長 高桑 紀美江 記)

六日町公民館城内分館

大平千秋 さん

六日町公民館では、最古参である。といつても、統計担当から生涯学習へ異動になって、分館担当としてまだ四年目であるが。前職とは大きく異なった職にありながら、持ち前の行動力で、分館活動をリードしている。彼女の特徴は、なんといつても、その行動力にある。各種分館行事の際に、周到な準備のもと、小柄な体ながら他の役員の先頭に立って動き回っている。また、抜群の事務能力を持ち、



分館事務だけでなく、課内の庶務を手際よく処理している。さらに、だれが担当してもスムーズに行なえるよう、定例行事等のマニュアル化を図りつつある。

このように、職場では皆から頼りにされる存在であるとともに、家庭に帰れば、一家の主婦として家事を切盛りしているスーパーウーマンである。(六日町公民館 高橋 幹英 記)

『若者に未来を託す討論会案内』

1. 期日と会場
平成11年12月11日(土)午後1時30分～4時30分
県立生涯学習推進センターホール TEL 025-284-6110
2. 主催
新潟発『ハート TO ハート』親から子へ実行委員会
3. 主管
新潟県社会教育団体懇話会
社団法人新潟県社会教育協会
4. 趣旨
いつの時代でも「今時の若い者…」という言葉は、年長者が若者を語る枕詞になっている。一方で、「どうせ大人は」とか「どうせ世の中ってこんなものさ」というあきらめのことばも、どこからか聞こえてくるような気がする。しかし、そこで終わってしまっても良いものだろうか。
確かに 青少年をとりまく課題は多い。しかし、それらは若者の責任と言うよりは、社会全体で知恵を出し合って解決しなければならないものだろう。
そこで、ここでは、若者と年長者が世代を越えて互いの本音を語り合い、率直な意見交換をする中で、共通理解をしつつ、ともに光明の見える21世紀を展望したい。
- ④. パネリスト他
(1) 新潟市内高校生 15名
(2) 成人 5名。
齋藤 勉 新潟大学教育人間科学部教授(兼コーディネーター)
廣井 公明 新潟市立明鏡高等学校校長
市村 周子 主婦
櫻井 三芳 県立新潟南高等学校PTA会長
寺瀬 千恵 県婦人連盟事務局
(3) 指導者 鈴木 英彦 県立新潟江南高等学校教諭
(4) ディレクター
田中 正男 社団法人新潟県社会教育協会
5. 問い合わせ先 社団法人新潟県社会教育協会
TEL&FAX 025-228-2419
Eメール: syakyo55@poplar.ocn.ne.jp
6. その他 ☆当日参加はできないが、意見参加をしたい方は、EメールあるいはFAXで事前にご意見をください。

第13回 ネットワーク

新潟県

ふるさとづくり大会開催1次案内

地域の個性を生かすこれからのまちづくり

1. 主催 小出町地域づくり連絡協議会、あしたの新潟県を創る運動協会
働あしたの日本を創る協会
2. 共催 小出町、新潟県コミュニティづくり協議会、新潟県生活学校連絡協議会
3. 期日 平成11年12月4日(土)10:30～
4. 会場 「小出郷文化会館」北魚沼郡小出町干溝 電話02579-2-2777
5. 日程
10:30 開会行事
10:45 表彰式
11:00 事例紹介 受賞団体の実践事例の紹介
12:50 祝 辞・新潟県知事 平山征夫様
歓迎の言葉・小出町町長 高橋利勝
13:20 基調講演・演題「これからの活力あるまちづくり」
・講師 小松崎和夫氏、日創協常任理事 読売新聞北陸支社長
14:40 分科会
16:10 全体会 分科会報告と講評
17:15 交歓交流会 小出郷文化会館 アトラクション(小出町囃子同好会)
6. 分科会
第1分科会(防災) 安全で安心して暮らせるまちづくり(全国モデル2地区発表)
第2分科会(資源) 自然と環境を活かすまちづくり
第3分科会(交流) 人がふれあう元気なまちづくり
第4分科会(文化) 夢と安らぎのある文化薫るまちづくり
7. 参加費 交歓交流会まで参加の方は、3500円
入会費は別途
人だけ参加の方は、昼食・資料代を含め1500円
8. 参加申込 11月22日(月)まで、参加申込書は2次案内につきま
9. 申込先 ・小出町教育委員会(担当、高永、山本)
〒946-0011 北魚沼郡小出町大字小出島130-1
☎02579-2-1115 FAX02579-2-9377
10. 事務局 ○あしたの新潟県を創る運動協会(担当、関、塩田)
〒新潟市新光町4-1新潟県生活環境部生活企画課内
☎025-285-5511 内2489 FAX025 283 5879

新潟県立自然科学館各種教室案内

期間	名称	申込締切	時間	対象・定員	参加料
12月5日(日)	ホワットくんのパソコン教室	申込先着	10:00～16:00	12名	入館料(パソコンを持参されない方は、厚かみ1,050円が別途です)
12月11日(土)	電子レンジのふしぎ	当日受付先着	13:30～14:10	入館者20名	入館料
12月12日(日)	白鳥観察会	当日受付	13:30～14:30	入館者(希望者全員)	入館料
12月19日(日)	液体の表面張力	当日受付先着	13:30～14:10	入館者30名	入館料
12月23日(木)	プラネタリウムコンサート	チケットの前売、当日取売	①13:30～14:15 ②15:00～15:45	入館者210名	大人 710円 小中学生 410円

参加料

入館料	大人 510円	小・中学生 310円
入館料+プラネタリウム料	710円	410円

○幼児、障害者の方は無料です。
○プラネタリウムを観望される場合は入館料が必要です。

12月及び年末年始の休館日は6日(日)、13日(月)、20日(月)及び27日(月)から1月4日(火)までです。

お問い合わせ先
☎ (025)283-3331
FAX (025)283-3335
Eメール nsmuseum@bsnnet.co.jp
ホームページアドレス <http://www.lalanel.gr.jp.nsn.index.html>
〒950-0941 新潟市女池2010-15
新潟県立自然科学館

◇古報 新潟市鳥屋野地区公民館長伊藤高様が、第33回欧州社会教育事情視察団員として、11月11日(木)より24日(木)まで欧州3カ国を視察予定で、昨年の様子に引き続き今年も本県から

表紙解説

川根谷内地域公民館主催の『子ども稲作体験事業』
子どもたちに、田や畑で作る楽しさを体験してもらおうと9年前から実施しています。
この日は、5月に植えた苗を自らの手で刈り取った初体験の日でした。
(横越町中央公民館)

発行所 新潟県公民館連合会
〒951-8053
【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【TEL・FAX (025)224-6073】
発行人 会長 今井昭友
編集人 事務局長 鈴木友大
【定価1部150円 年共1,800円】

◇平成12年度に県公連創立50周年を迎えるにあたり、その記念事業の關係で、来る11月26日(金)、臨時の理事会・評議会が新潟市中央公民館で開催されます。
(鈴木)